

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：鶴見あけぼの保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：穴井真紀子	定員（利用人数）：60名 （利用人数:68名）	
所在地：〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央1-18-10		
TEL：045-511-1304	ホームページ： www.akebono-hoikuen.org/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2005年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人鶴見あけぼの会		
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：16名	
専門職員	保育士：23名	栄養士：1名
	調理師：1名	
施設・設備 の概要	保育室：8	トイレ：5ヶ所
	調理室：1	事務室：1
	園庭：有	

③ 理念・基本方針

（理念）

憲法・児童福祉法・子どもの権利条約などの精神に基づき、子どもの生命を守り、心身ともに健やかに育つことをめざし努力します。そのためにも、保護者を始め子どもと関わる全ての人々が安心して働き、生活できる社会の実現をめざします。

（基本方針）

長年の共同保育で培ってきた「子どもをまん中に大人同士がつながり努力し合う」という子育ての理念に基づき、子どもたちの生命を守り、豊かに育ち、一人一人が尊重され、生きる力が育つことをめざし保育にあたります。また、保護者や地域社会の人々が安心して子育てができるように、みんなで心を合わせ、ともに考え、ともに喜び合える保育園をめざします。

③ 施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄駅から徒歩5分の立地にあり、保護者は通勤しやすく、園児は区内多方面から通園しています。利便性の良い場所にありながら、近隣に総持寺や鶴見川河川遊歩道など子どもたちが遊べる自然環境に恵まれています。園庭は、1階の土の園庭の他、園舎3階にゴムチップ敷のテラスがあり、土の園庭では思う存分泥んこあそびができるようになっており、ミカンやコナラ・カナメモチなどの植栽があることから子どもたちはかくれんぼしたり、実を取ったり、様々に楽しんでいます。3階テラスには、夏は大型プールを設置し、幼児クラスの子どもたちが思いっきりプールでの活動を楽しむ他、プールがない時期は、広いスペースを使い大縄跳び・鬼ごっこ・竹馬等、身体を使った遊びを楽しみます。子どもたちは、太陽・水・風・土などと戯れ自然の中で五感を豊かに育む保育、様々な素材に触れ手指をたくさん動かし脳の活性化に繋がります。散歩や外遊びの他、リズム運動・鬼ごっこなどの全身運動で思いっきり

体を動かして丈夫な足腰を育みながら心肺機能を育てます。0歳児から大人と共に生活に根差した歌をたくさん歌い、豊かな感性を育みます。EM活性液を使つての土づくりからプランター野菜の栽培を行い、水やり草取りなどの世話を経て収穫したものをクラスで料理したり、給食で使うなど食育活動も積極的に行います。布おむつを使つての保育では、排泄の自立を促したり、環境に配慮した取り組みに繋げています。保護者と職員は、互いに子育てのパートナーという考え方をモットーにし、子どもをまん中に共に育ち合える関係作りを進めています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月26日（契約日）～ 令和6年2月27日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの育つ力を信じ、主体性を尊重しています

子どもの個性を尊重し、子どもの育つ力を信じ、乳児であっても主体性を大切に保育しています。保育士は一人ひとりの子どもの様子に気を配り、得手不得手、好き嫌いを把握しています。クラスだよりや日誌には子どもの様子が詳しく記載され、個性が大事にされていることがわかります。発達状況を踏まえ、その子の気持ちを大切に、得意なもの、良いところを伸ばす保育を行っています。

2)保護者と協力して運営に当たっています

入園前の説明会で保護者会等について十分に説明し、理解を得ています。保護者会代表は運営協議会委員になり、法人の運営についてともに検討しています。保護者会は行事等園の保育に協力するとともに、園への意見・要望を取りまとめ、年2回行われる三者懇談会（理事・職員・保護者）に提出しています。三者懇談会にはクラス代表が1名以上出席し、改善内容を法人や職員と建設的に検討しています。保護者会を設置しない施設も増えるなか、双方の協力によりより良い園運営に向け取組がされています。

3)地域に根差した保育・子育て支援を展開しています

近隣や町内会とのつながりを大切にしています。「なつまつり」や音楽会など地域住民も参加できる行事を実施しています。地域の園への協力については「園だより」に記し、地域あつての園であることを保護者に周知しています。「鶴見区子育て教育懇談会」で園長が代表委員を務めています。近隣の保育園とともに出張保育に年2回参加し、園内では地域子育て支援講座を年数回実施しています。一時保育は定員4～6名で専用保育室を設定して行い、園庭開放を月2回実施しています。

4)新たな保育士確保のルートが期待されます

現状では園内清掃や整理整頓作業、新規雇用職員への研修などが十分に行えていると言い切れず、保育士増に課題がありますが、直接雇用による確保が難しいため、採用方法の改善に努めています。園では、今後養成校への訪問などを計画しています。また卒園生の中に保育士等になって園に戻った人や、SNSで園を広報しようと準備をしています。今後卒園生との連携・交流を進めたいとも考えています。これらの取組が人材確保につながることを期待されます。

5)個別対応に工夫が期待されます

一人ひとりの個性や違いを大切に保育を行っています。個別対応に課題がみられま

す。アレルギー対応では、除去食は個別対応ではなく、クラス単位の除去食となっています。ヒヤリハットでの報告でも、個別の見守りに課題を感じます。人員の問題がある中ですが、一人ひとり違いを重視し、個別に対応することと、見守り体制の強化を図ることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

久しぶりに第三者評価を受審し、自分の園の運営や組織を客観視する好機となりました。

運営上不足している部分や今後も引き続き継続すべき部分などが明らかになり、今後の課題が明確になりました。

丁度、2024年度から始まる中期計画を策定したところでしたので、地域に信頼される保育園作りを目指し、計画的かつ、より具体的に進めていきたいと思えます。

利用者アンケートも大変貴重でした。調査員には「子どもの育ち第一」の視点に立ち、保育の細かいところまで見ていただき、私たちの思いに寄り添っていただけたことは、大変嬉しいことでした。これを機会に、職員一同、真摯に今後も励んでいきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり